平成１８年１１月２７日

〒５９０－０４９４
京都大学原子炉実験所
助手・小 出 裕 章 様

〒１７７－００４１ 4-25
蒼天社政治情報センター
代 表・石 川 鐵 也

公 開 質 問 状 Ⅴ

平成18年11月16日第585-31-90190-1号配達記録郵便での公開質問状Ⅳに対する文書回答(11月21日付)いただきましたが、質より量を重視されている回答故でしょうか、中身よりも梱包にこだわった内容故でしょうか、疑義払拭には至りませんでした。

さて、当該質疑応答書をインターネット上に公開するとのことですが、原文のままでの公開なら当方も望むところであり何らの異論もございません。より多くの国民に閲覧いただければ、実行可能な理想論か、それとも夢見る無総論かについても、より適切な判断がなされることと思います。

よって、小出さんの危惧されたような内容の細切れ、説明不足と感じた点を下記再質問させていただきます。ご面倒とは存じますが、下記質問に対する一週間以内（できるだけ）での文書回答、宜しくお願い申し上げます。

— 記 —

１．小出さんは、「原子力発電を即時停止し、太陽エネルギー発電に移行するまでは化石燃料で発電する」と断じておりますが、これは、資源輸出国の思惑次第で日本のエネルギー事情が左右されることになる「（無責任同様）非現実論」と言わざるを得ません。これまでの古い実例を持ち出すまでもなく、不安定な中東情勢やサハリン１、２の現状から容易に推察されるはずです。

また、ウランがないからこそ、資源のリサイクルを完成させようと努力しているのです。小出さんも認めているように、科学、技術は進歩するのです。エネルギー問題は国家戦略の要であり、「外交の要諦」と言っても過言ではありませんから、責任ある政府ならば、化石燃料に限定する愚は絶対におかしません。如何でしょうか？企業（生産業、運輸業等々）消費量を２分の１にすればどういった反動が生じるというのか、小出さんは本当に考えているのでしょうか？併せてご教示いただきたい。

２．小出さんが、「今後の研究で地層処分よりましな処分方法が見つかる可能性はもちろんあるのだから、今、安全の保証ができない方法で埋め捨てにしてはならない」と断じたので、①一体どこの誰が、地層処分よりましな処分方法とやらを見つけるというのでしょうか②ましな処分方法がみつかるまではどうすれば良いと言うのでしょうか③廃炉にした原発を一体どのようにして処理・処分するというのでしょうか、と質したのです。

①については、我が国においては現在、どこの誰も新しい処分方法をみつけよう

としていない。故に新しい方法などみつからない、でよろしいですか？

②については、地層処分より地上保管が安全、と主張されているようですが、何故、地上保管の方が安全と断言できるのでしょうか？それこそ原発反対派が唱えるところの航空機の落下やテロの標的にされるのではありませんか。地下隆起が生じれば、地上にも影響が出るのではありませんか。小出さんたちも、「安全問題が第一」と考えているのではありませんか。安全を確保するためには、三つの余裕（時間的な余裕・物質的な余裕・精神的な余裕）が必要ですが、小出さんは、そういった問題をも考慮した後に、「都市部の地下に建設すべし」と主張されたのですか？

私には「絶対的無責任論」に思えてならないのですが、如何でしょうか？余計な部分は不要です。是非ともその具体的な理由と併せてご教示いただきたい。

3．本項についても、書いてない部分、理解されない部分について質しております。私は「発電設備に余裕がない」などと記しておりません。小出さんは「安定電源の意味を理解していない」と記した上で、無計画かつ思いつきで原発を停止した訳ではありません。予備電源の整備状況等を確認するなどして、順次計画的に停止したはずです。チェルノブイリ原発も同様です。代替エネルギー源が確保できなかったら、世界を震撼させた型式の原発でも稼働させなければならないのです、と記したのです。それこそ確認してください。稼働、停止を計画的に行える原発もまた安定電源の一種なのです。

火力発電設備に十分な余裕があっても、発電するためには燃料が必要なのです。短期運転と長期運転では、関する条件も変わってくるのです。「短期運転ができたから、長期運転も可能だ」などと発言するようでは電力も相手にしないと思いますが如何でしょうか？私の唱える安定電源の定義に意義があるのであれば、その理由と併せてご教示いただきたい。

4．①については、この十数年間、小出さんの発言を含め、多くの報道機関と議論しております。小出さんに質問したのは、小出さんの無責任な発言が発端となったからです。小出さんの発言がなければ書きませんでした！

②については、小出さんが「核兵器の場合も原発事故による場合も被爆による悲惨です」などと書かれたので、核による死亡以外でも命の重さは同様であり、遺族の悲しみに差異は無いと主張したのです。今後は注意いただければ幸いです。

③について小出さんは、「議論をすれ違わせています」と述べておられますが、一体どこを指しての言葉でしょうか。具体的に指摘していただければ幸いです。

小出さんの主張を要約すれば、過疎地の住民はリスクのみで、都会の住民はベネフィットを享受しているとなるのですが、本当に都会の住民は利益のみを享受しているのでしょうか？本当に過疎地の住民は何らの利益も享受していないのでしょうか？生活の不便、利便等も考慮すべきだと私は考えています。リスクは原発だけに存在する訳ではありません。ＢＢＣ放送によると、イギリスでは火力発電廃炉のデモが行われたとのことです。

回答に該当する部分が見当たりませんので再度書きます。ドラマの終了は造り手次第ですが、現実は違います。故に私は、「東京都民が、そのリスクを負わずに、原発をよその土地に押し付けておいていいのか、で止めてはならない。住民一人ひと

りの命のリスクが同じだからこそ、被害を最小限に停める方策を講じる必要があるのだ。多数の都民らが少数島民全員を受け入れることは可能だが、その逆は無理である」。こういった部分的事実を積み重ねるだけでも、どういった場所を適地とすべきなのか、常識ある人々ならば理解できるはずですが、小出さんの見解は如何でしょうか？

④京都大学原子炉実験所所長は、「原子炉実験所は、原子炉による実験及びこれに関連する研究を行うことを目的に設置されました。我が国では原子力発電が総発電電力量の３割りを優に越え、放射線利用も産業、医療など種種の分野に広がっています。今後とも原子力・放射線施設の安全な管理運営の遂行を最優先課題としつつ、人類社会と地球環境に調和した原子力の平和利用を目指す」などと話されていますので、原子力発電の必要性をも認識した組織と推察したのです。

故に、科学や技術の進歩も、問題点をクリアーしようと努力する関係者がいればこそではありませんか。リスクがあれば、その事実を国民に伝えることも大事ですが、その一方でリスク削減の努力をすべきではありませんか。小出さんがもし本当に、国民を不安視させるためだけに当該所の助手をしているのであれば、「それは問題だ」と言わざるを得ません。例え、数多い助手の一員であっても、原子力基礎科学研究本部に席がある以上は、まず、現実を踏まえるべきだと考えます。

これまでの文章を読み返してください。小出さんから相談を受けたとも書いてませんし、指図しているわけでもありません。ただ、私の見解を素直に述べているだけです。ご理解いただけましたでしょうか？

5．私は、日本がエネルギー浪費を続けるべきだ、と主張している訳でもありませんし、エネルギー浪費構造を変革する必要もない、と説いている訳でもありません。ましてや、太陽が消えてなくなると言っている訳でもありませんし、太陽エネルギーの概要を質している訳でもないのです。

小出さんも、「一国の政策は方向を決め、大枠を決め、その周辺に産業や個人などが多くの問題を出しながら決めていくのです」と述べておられます。故に、産業や個人はどうすれば良いのか、と質したのです。抽象的な事を小出さんに教えていただく必要はありません。その具体的な役割をご教示いただきたいのです。

そういった役割を具体的に纏められないのであれば、一実験所の助手である小出さんを、政策立案過程に参加させるはずもないと私は認識しています。

小出さんがそれほど政策立案過程に参画したいのであれば、「個人が家庭でどんなに頑張ったところで、省エネの効果はしれています」などと逃げず（各家庭が省エネを徹底できたらその効果は大きいはずです）に、産業や個人の本来あるべき姿について、その具体的な役割を纏めてください。もし的を得た意見であれば、それをインターネットで確認した政府関係者が小出さんの参画を認めるかもしれませんが如何でしょうか？政府の常識もまた、助手より講師、講師より助教授、助教授より教授の意見となるのです。ご理解いただければ幸いです。

以上